

Salon

Vol.111 2017年11月 冬号



ホール3F 壁画 ポール・ゴッアマン作「ヴァイオリニスト」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 沼沢淑音、藤江扶紀
- 03 Phoenix Presents — 2018年度ティータイムコンサート
アルペナ・ダナイローヴァ ヴァイオリンリサイタル
- 06 Phoenix Spot — 『新しい時代』はこの時代にどう響くか? 伊東信宏
- 07 Essay de say — 気になる音 福本 健

ザ・フェニックスホールが提案する新しいクラシック音楽の楽しみ方 ピアニスト沼沢淑音さん ヴァイオリニスト藤江扶紀さん



©Kenji Okada

プログラム(曲目)が事前には一切明かされないシークレット・コンサート。この一風変わったコンサートは、お客様にアーティストの気持ちになって曲目を想像していただき、普段とは違う角度でコンサートを楽しんでいただくという趣向です。ただ、数えきれないほどの曲の中からアーティストが何の曲を選ぶかを想像するのはあまりに不可能な事です。そこでいくつかのヒントを用意しました。ひとつ目はテーマです。“赤”というワードから、二人には自由にプログラムを創造して頂きました。また、条件として誰も知らないような曲は選ばないでくださいとお願いしました。ですので、知る人ぞ知るといような現代音楽の曲などは入っておりません。

二つ目の大きなヒントとなるのが今回のインタビューです。方法としては二人に同じ質問をし、答えていただきました。自身の事から今回の企画に関することまで、様々な質問をさせて頂きました。回答の文章は、修正を行わずに掲載していますので、二人の個性がよりはっきりと浮き彫りになっていると思います。全てのプログラム(解答)はコンサート当日に明らかにされます。是非、答え合わせをしに、ザ・フェニックスホールまでお越しください。お待ちしております。

(構成・宮地泰史/あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール)

沼沢淑音(ぬまさわ・よしと/ピアノ)

アルフレッド・シュニтке国際コンクール、ポッツォーリ国際ピアノコンクール優勝。浜松国際ピアノコンクールにおいて「アルゲリッチ芸術振興財団賞」「ネルセシアン賞」を受賞。東京でのラ・フォル・ジュルネ音楽祭で演奏、別府アルゲリッチ音楽祭など、国内外で演奏する。仙台フィル、アンサンブル金沢、ロシアシンフォニーオーケストラと共演など、国内外のオーケストラとも多数共演している。また室内楽にも積極的に取り組み、2010年、崎谷直人・新倉瞳両氏とのピアノ・トリオのCDを発売。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマを経て公益財団法人ロームミュージックファンデーションの奨学生として2015年にモスクワ音楽院を卒業。

藤江扶紀(ふじえ・ふき/ヴァイオリン)

大阪府出身。2011年、第80回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第1位。宮崎国際音楽祭などに招待され、ソロリサイタルや室内楽リサイタルを行う。これまでに、東京交響楽団、京都市交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニー管弦楽団などと共演。東京藝術大学在学中に、安宅賞、アカンサス賞、同声会賞受賞。同大学を卒業後、公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生として渡仏し、翌年2014年春、フランスでLa Fondation Banque Populaire を受賞。2016年6月、パリ国立高等音楽院 第二課程(大学院)を卒業。2018年1月より、フランス・トゥールーズキャピトル国立管弦楽団 Coコンサートマスター(Co-Soliste)に就任。

シークレット テーマは“赤”、曲目は秘密、想像する愉しさを

どのようなきっかけで音楽をはじめられましたか？また、音楽を志そうとしたきっかけは？

沼沢淑音

家にピアノがあり、よく遊びで弾いたりしていたようです。強制的にやらされたことはなく、両親が音楽に携わっていて音楽がごく自然にありました。小学生の頃ほとんどの友達に聴いてもらうことが好きで、それがいつも楽しみでよく新しい曲を暇さえあれば弾いていました。いたずらばかりしていた小学生時代は全てにおいて自由で、今でも懐かしいです。

藤江扶紀

父が音楽を聴くのが大好きで、家には沢山のレコードと、それらを聴くための防音の施されている部屋がありました。また、母がもともとピアノをやっていたこともあり、ひよんなことからヴァイオリンのレッスンを見学しに行くことになったのです。その後、母が「やる〜？」と聞いたら、私は「やりたいー！」と頷いたそうです(笑)。小学生の頃から、10日に一度のレッスンに行くのが楽しみで、もう既に、それ以外の道は考えていなかったような気がします。

好きな作曲家を教えてください。また、その理由は？

好きな作曲家はたくさんいますが、やはり特別なのはバッハです。宇宙的ですし、ほぼ全ての作曲家とつながりがあるからです。エトヴィン・フィッシャー(1886-1960)(※1)は、「バッハは自分のために、モーツァルトは愛している人のために弾きたい」と確か言っていましたが、僕もバッハを自分のために弾くことが多いです。

好きな作曲家...これは私にとってはいつも難しい質問です。フォーレやラヴェルの、色彩感強いけれど、穏やかで、しみじみと語りかけてくるような音楽は愛して止みません。しかし、ヘンデルの瑞々しさにも、バルトークやプロコフィエフ、ショスタコヴィッチの前衛的だけれどそれゆえの心地よさにも、ベートーヴェンやブラームスの渋めの重厚感にも、惹きつけられます。

どのような演奏家を理想としていますか？(目指す演奏家像や好きな演奏家など)

理想とする演奏家というのは難しい質問ですが、アポロンとデュオニソス、どちらかが欠けずに両方が共存していたらいいなと思っています。演奏家は基本的には古い時代の人達が好きです。弦楽器が大好きでピアノ以上に聴く機会が多いです、ダニール・シャフラン(1923-1997)(※2)、ヴァイオリニストではタイプは違いますがナタン・ミルシテイン(1903-1992)(※3)やクリスチャン・フェラス(1933-1982)(※4)が好きです。

演奏している時間もしていない時間も、音楽に対して、人に対して、いつも真つすぐ向き合っている音楽家になりたいと思っています。歳を重ねていく上で、少しずつ理想は変わっていくものだと思いますが、いつの時も、目の前にある曲、その作曲家に敬意を持って取り組みたいです。

普段、演奏会のプログラムを組む時にどういう事を考えますか？

プログラムを組む時には、コンセプトにもよって、もちろん違いますが、プログラムの最初にどちらかというイメージの美しいアポロ的な趣の曲を選び、後半に向けてそれを壊すようなデュオニソス的な破滅的なものを選ぶことが多いような気がします。

お客様に自分の音楽を十分に楽しんでいただけるプログラムであるかどうか、また、今の自分が成長することができるプログラムかどうか。

今回の企画についてどう思われましたか？(曲目をシークレットにすることについて)

沼沢淑音

曲目をシークレットにして演奏させて頂くのは初めてですが、楽しいまた素晴らしい企画だと思いました。僕がイメージしている赤には独断と偏見があるかもしれませんが、また聴きに来て下さる方のイメージとの違いや共通点なども楽しめたらいいなあと思います。

藤江扶紀

興味深い企画だと思います。周りの方も、色々想像してくださっていて、なんだろう赤のプログラム。○○かな、どうかな、と声を掛けてくださる方がいらっしやいます。今は明かさなように必死ですが、それを楽しんでいきます(笑)。

音楽と色にはどのような関係があると思いますか？

実際にスクリーンのように共感覚を持つ人物がいますし、カンディンスキーは色と音との内的な結び付きを意識して絵を描き、確かに音と色には強い相関性があると思います。音楽の中ではそれが複合的に組み合わせたり万華鏡のようで、それに加えて五感や経験、あらゆる感覚が結び付いた総合的なものになると思います。そこにある種現実世界を離れた宇宙へとつながるような、本当の意味での精神の自由な世界があるような気がします。

とても強い結びつきがあるように感じます。例えば絵画を見ているとき、夕焼けを眺めているときにふと頭の中に音楽が流れだすことがあるように、逆に音を作るときに色のイメージを持って取り組むことも少なくありません。

お客様にひとこと。今回のプログラムの聴きどころなど。

ザ・フェニックスホールで演奏させて頂くのは二回目なのですが、この素晴らしいホールで演奏させて頂くことが大変嬉しいです。曲目はここには書くことはできませんが、それぞれ全く違う性質、性格の曲が並んでいます。お忙しい中聴きにきて下さるお客様に感謝とともにもし音楽を分かち合えることができれば大変嬉しいです。

今回のプログラムでは、私なりに様々な“赤”を表現できそうな曲を選んでいきます。色や音のイメージは人それぞれに多様だからこそ、音楽や表現の可能性も無限に広がるように感じます。お聴きいただく皆様に、新鮮な、時にドラマチックな、あるいは懐かしい、幅広い“赤”のイメージをお届けすることができれば光栄です！

Yoshito Numasawa

Fuki Fujie

※1 エトヴィン・フィッシャー(1886-1960)スイス出身のピアニスト。世界で初めてバッハ「平均律クラヴィノーヴァ」の全曲録音を行った。

※2 ダニール・シャフラン(1923-1997)ロシア出身のチェリスト。

※3 ナタン・ミルシテイン(1903-1992)ウクライナ出身のヴァイオリニスト。

※4 クリスチャン・フェラス(1933-1982)フランス出身のヴァイオリニスト。

「サンデー・クラシック・サロン ～“赤”から連想する曲目(プログラム)のミステリー」は、若手実力派2組が登場。2018年1月21日(日)午後3時開演。第1部に藤江扶紀が出演、ピアノは山中惇史。第2部は沼沢淑音が出演。2時間30分公演の予定。入場3,000円(友の会2,700円)、学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。



今回は土曜日の発売となります

11月25日(土)
10:00 受付開始
ザフェニックスホール
友の会優先予約

11月27日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

11月28日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは11月29日(水)10:00から!

2018年度 ティータイムコンサートシリーズ [127]~[133]



フェニックスならではの、スペシャル・マチネ。通し券なら、1回約2,600円

金曜の午後、上質な音楽をおいしいお菓子・お飲み物と共にお届けするティータイムコンサート。都心に立地し、抜群の交通アクセスで関西一円から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。2018年度は7公演。室内楽の様々な形態をバラエティ豊かにラインナップしました。チェコを代表する円熟の弦楽四重奏、ニューヨークから凱旋するピアノトリオ、リスト国際ピアノコンクール第1位の俊英、19世紀を再現するピアノ五重奏、ウィーン歌劇場でオペラデビューしたカウンターテナーなど、自信のアーティストがずらり並ぶフェニックスだけの「スペシャル・マチネ」をお楽しみ下さい。

いずれも金曜日 14:00開演 指定席 お茶・お菓子つき

[7公演]合計額 ¥24,000

年間通し券

一般価格 ¥22,000

友の会価格 ¥18,000
(お一人様2席まで)



127 チェコを代表する弦楽四重奏団が奏でるドヴォルザークの憧憬と望郷。

プラジャーク・クワルテット with 山崎智子 〜オール・ドヴォルザーク・プログラム〜 (ヴィオラ)

2018年6月1日(金)

一般¥4,500(友の会価格¥4,050)

学生¥1,500(限定数)

●出演●

ヤナ・ヴォナシュコヴァ(第1ヴァイオリン)

ヴラスティミル・ホレク(第2ヴァイオリン)

ヨセフ・クルソニュー(ヴィオラ)

ミハル・カヌカ(チェロ)

山崎智子(ヴィオラ)

●曲目●

ドヴォルザーク:

弦楽四重奏曲 第12番 へ長調 「アメリカ」 作品96
弦楽五重奏曲 第3番 変ホ長調 作品97 ほか(予定)
減多にないこの機会をお聴き逃しなく。



誰もが知る弦楽四重奏の名曲「アメリカ」は、ドヴォルザークが創作の最も充実していた時期に書かれたもので、その次に作曲された弦楽五重奏曲は、まさに「アメリカ」と双璧をなす名曲。この2曲をメインに、チェコ・サウンドを体現するプラジャーク・クワルテット、そしてロース・クワルテットの山崎さんが加わって演奏。

128 古典から映画音楽まで、時代を超えて奏でられる美しき旋律。

古部賢一(オーボエ) & 鈴木大介(ギター) デュオコンサート

2018年7月13日(金)

一般¥3,500(友の会価格¥3,150)

学生¥1,000(限定数)

●出演●

古部賢一(オーボエ)、鈴木大介(ギター)

●曲目●

ヴィヴァルディ:ソナタ 八長調 RV48

フォーレ:シシリエンヌ 作品78

ラヴェル:ハバネラ形式による小品

ピアソラ:カフェ1930

ジョーピン:イバネマの娘

モリコーネ:

ニュー・シネマ・パラダイス ほか(予定)



©土居政則

甘く柔らかな音色で音を紡ぐ、古部さんのオーボエと、歯切れ良く軽やかに響く鈴木さんのギターとのデュオコンサート。プログラムはバラエティに富み、二人の名手によって描きだされる音楽世界は、どこか懐かしく知らない世界を旅するような旅情と郷愁を感じさせてくれます。ゆったりと贅沢な時間をお楽しみください。

129 フランツ・リストの地、ハンガリーで認められた逸材が奏でるヴィルトゥオーゾの世界。

阪田知樹 ピアノリサイタル

2018年9月28日(金)

一般¥3,000(友の会価格¥2,700)

学生¥1,000(限定数)

●出演●

阪田知樹(ピアノ)

●曲目●

リスト(プゾーニ編):

メフィストワルツ 第1番 S.110 R.427

リスト:

ピアノソナタ 口短調 S.178 R.21 ほか(予定)



©HIDEKI NAMAI

2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、併せて6つの特別賞受賞。コンクール史上、アジア人男性ピアニスト初優勝の快挙を成し遂げ、室内楽奏者としても着実にキャリアを築く逸材が初登場。磨き上げられた超絶テクニックは圧巻。お聴き逃しなく。

ホール主催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00
11/25(土)のみ友の会優先予約のため営業

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。(ティータムコンサート)の割引率はこの限りではありません)
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。
- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

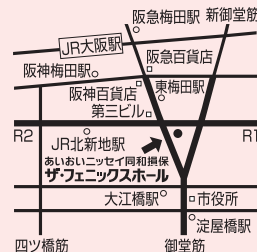
http://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による
お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エスカレーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

130 結成10年。甦る、19世紀のピアノ五重奏の世界。

デンハーグピアノ五重奏団

2018年10月5日(金)

一般¥3,000(友の会価格¥2,700)

学生¥1,000(限定数)

●出演●

小川加恵(フォルテピアノ)
高橋未希(ヴァイオリン)
朝吹園子(ヴィオラ)
山本 徹(チェロ)
角谷朋紀(コントラバス)

●曲目●

デュセック:ピアノ五重奏曲 作品41
フンメル:ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品87
シューベルト:
ピアノ五重奏曲 イ長調「ます」D667 (予定)

使用楽器
アントン・シュヴァルトリンク
(1835年頃、ブラハ製)

2011年、第16回ファン・ワセナール国際コンクールで優勝し、世界の古楽音楽祭からも多数招聘されている今注目のオリジナル楽器によるアンサンブル。奏者による歴史や奏法などのお話付きで、名曲が誕生した当時の楽器の響きとともに躍動感あふれるステージをお楽しみください。

131 ホルショフスキの最後の弟子、相沢史江子率いる至高のピアノトリオ。

ホルショフスキ・トリオ

2018年11月9日(金)

一般¥4,000(友の会価格¥3,600)

学生¥1,000(限定数)

●出演●

ジェシー・ミルス(ヴァイオリン)
ラーマン・ラマクリシュナン(チェロ)
相沢史江子(ピアノ)

●曲目●

ハイドン:ピアノ三重奏曲 ト長調
「ハンガリー風ロンド」Hob.XV-25
C・ウォリネン:ピアノ三重奏曲(1983)
A・フット:ピアノ三重奏曲 第2番 変ロ長調 作品65
シューマン:
ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 作品63 (予定)



©LISA-MARIE MAZZUCCO

ニューヨークを拠点に世界で活躍するホルショフスキ・トリオ、久々の来日公演。ピアノの相沢さんは宝塚市出身で、10代の半ばからアメリカに渡り研鑽を積んできた逸材。シューマンをメインに、アメリカのロマン派時代の作曲家フット、現代作曲家ウォリネンの濃密な作品も紹介。トリオの面白さを存分にお楽しみください。

132 ウィーン在住の俊英が奏でるドイツ・ロマン派の調べ。

今井信子presents

原ハーゼルシュタイナー麻理子

ヴィオラリサイタル

～シューマン&

シューベルト名曲集～

2019年1月25日(金)

一般¥2,500(友の会価格¥2,250)

学生¥1,000(限定数)

●出演●

原ハーゼルシュタイナー麻理子(ヴィオラ)
島田彩乃(ピアノ)

●曲目●

シューマン:おとぎの絵本 作品113
シューベルト:
アルペジオネソナタ イ短調 D821 ほか(予定)



©吉田タイスケ

原さんは、ヴィオラ界の巨匠、今井信子さんが激賞する若手ヴィオリスト。「おとぎの絵本」はヴィオラのために書かれた中音域を活かしたロマンティックな旋律に溢れた名曲。歴史的な名曲「アルペジオネソナタ」はヴィオラ編曲版で。ヴィオラならではの美しさを追究した名曲の数々をお楽しみください。

133 ウィーン国立歌劇場でオペラデビュー。世界が認めた本格カウンターテナー。

藤木大地 カウンターテナーリサイタル

2019年2月8日(金)

一般¥3,500(友の会価格¥3,150)

学生¥1,000(限定数)

●出演●

藤木大地(カウンターテナー)
松本和将(ピアノ)

●曲目●

武満 徹:死んだ男の残したものは
西村 朗:木立をめぐる不思議(藤木大地委嘱作品)
アイルランド民謡:夏のなごりのバラ ほか(予定)



日本人で初めてカウンターテナーでウィーン国立歌劇場に出演を果たした藤木さん。現地メディアにも絶賛されるなど、これからの活躍に増々期待が膨らみます。今回のリサイタルではオペラと並行して取り組まれている日本歌曲を軸に演奏して頂きます。藤木さんの透き通るように美しい声で日本語ならではの柔らかい響きをじっくりと堪能してください。

注目アーティストシリーズ69

2018年5月19日(土)

15:00開演 指定席
一般¥4,500(友の会価格¥4,050)
学生¥1,500(限定数)

出演
アルベナ・ダナイローヴァ(ヴァイオリン)
加藤洋之(ピアノ)

ウィーン・フィル史上初の女性コンサートマスター、関西初リサイタル!
アルベナ・ダナイローヴァ ヴァイオリンリサイタル

曲目 ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第3番 変ホ長調 作品12-3
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」作品78
フランク:ヴァイオリンソナタ イ長調 サン＝サーンス:序奏とロンド・カプリチオーソ (予定)

170年を超える歴史を持ち、世界最高峰のオーケストラのひとつであるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団で2011年、史上初の女性コンサートマスターに就任したアルベナ・ダナイローヴァ。彼女はこれまでにバイエルン国立歌劇場管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを歴任してきた実力派ヴァイオリニスト。また、オーケストラだけでなく室内楽にも積極的に取り組んでおり、今回はヴァイオリンの華やかさを存分に詰め込んだ、まさに名刺代わりともいえるプログラムを携えて来日。「ピロードのような、温かく、豊かで、贅沢な」と形容されるウィーン・フィルサウンドを是非ともお楽しみください。



アルベナ・ダナイローヴァ(Albena Danailova/ヴァイオリン) ブルガリアのソフィアに生まれる。5歳よりヴァイオリンをはじめ、ロストック音楽大学とハンブルク音楽大学で学ぶ。バイエルン国立歌劇場管、ロンドン・フィルのコンサートマスターを経て。2008年、ウィーン国立歌劇場の史上初となる女性コンサートマスターとなり、2011年にウィーン・フィルのコンサートマスターに就任した。これまでに、小澤征爾指揮ウィーン・フィル、ハンブルク北ドイツ放送響、日本ではN響、東響などのオーケストラと共演している。使用楽器は、1727年製のストラディヴァリウス「Ex.バンヴェヌーティ」(アンゲリカ・プロコップ財団より貸与)。



加藤 洋之(かとう・ひろし/ピアノ) 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学を卒業。大学院在学中の1990年にジュネーヴ国際音楽コンクール第3位入賞。ハンガリー国立リスト音楽院に留学し、その後ドイツ・ケルンでも研鑽を積む。これまでにハンガリー国立響、ブダペスト・フィル、ブルガリア国立放送響、ヘルシンボリ響、都響、日本フィルなど、国内外のオーケストラと共演。ウィーン・フィルのメンバーと頻りに室内楽を演奏、特にライナー・キュッヒル氏との共演は20年に及び、2010年にはベートーヴェンのヴァイオリンソナタ全曲演奏会がウィーン楽友協会で行われ絶賛を博した。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛・協力公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演

《冬のチェンバロ音楽祭2018》

主催 冬のチェンバロの会

結成20周年記念公演 トビリシ弦楽四重奏団

2018年1月9日(火) 19:00開演 自由席 一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150) 一般当日¥4,000(友の会割引なし)
学生&25歳以下前売・当日¥2,500 ※友の会割引は1会員2枚まで(限定数)。 ※ジョージアワインサービス付

出演 ギオルギ・バブアゼ、チプリアン・マリネスク(以上ヴァイオリン)、ザザ・ゴグア(ヴィオラ)、林 裕(チェロ)

曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 第74番 ト短調「騎士」Hob.III-74 作品74-3
S・ツィンツァゼ:弦楽四重奏のための8つの小品
スクリャーピン(G・バブアゼ編/弦楽四重奏版):
24の前奏曲 作品11より 第4、9、13番、2つの前奏曲 作品27より 第2番、
3つの小品 作品45より 第1番、9つのマズルカ 作品25より 第3番
ポロティン:弦楽四重奏曲 第2番 二長調

アジアとヨーロッパが交わる悠久の国ジョージア(旧グルジア)。関西フィルコンサート・マスター、ギオルギ・バブアゼさん率いるカルテットはそのジョージアの首都の名を冠して1998年に日本で結成され、20年、関西の地になくはならないカルテットとして親しまれています。今春には念願のトビリシ初公演もおこない、作曲家アザラシヴィリ氏をはじめ現地のみならずにも大喝采をうけました。さらに磨きがかかり進境著しい演奏をおとどけます。温かなユーモア、哀愁と懐かしさと情愛がここに!



発売中

協賛公演

辻本 玲 チェロ・リサイタル

一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700)
一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

主催 フィリー企画

2018年1月15日(月) 19:00開演 自由席

出演 辻本 玲(チェロ)、須関裕子(ピアノ)
曲目 ショパン:チェロソナタ ト短調 作品65
序奏と華麗なるポロネーズ 八長調 作品3
カサド:無伴奏チェロ組曲
ペンデレツキ:独奏チェロのためのディベルティメント
ヤナーチェク:おとぎ話

大好評を得た去年のリサイタルに続き、今年もこごザ・フェニックスホールで「辻本 玲チェロ・リサイタル」を!第2回カサドコンクールで入賞した際に演奏したカサド作曲の無伴奏組曲をはじめ、チェロを愛したショパンが作曲したチェロソナタなど、今回もチェロの美しさを最大限に発揮できるプログラムとなっています。辻本 玲の歌心、そしてチェロの名器Stradivariusから紡ぎ出される美音をぜひ聴きにいらしてください!



©竹原伸治

11月下旬発売予定

協賛公演

関西二期会サロンオペラ第16回公演「コジ・ファン・トゥッテ」

2018年1月17日(水)、18日(木) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)

主催 公益社団法人関西二期会

出演 金 正奉(指揮)、薮川直子(演出)、蜷川千佳(ピアノ)、米田哲二(公演監督)
キャスト(17日):大門真知子、山本 歩、大嶋真規子、島袋羊太、萬田一樹、林 隆史
キャスト(18日):奥村真比呂、安井裕子、野々村瞳、秋本靖仁、楠木 稔、西田昭広
曲目 モーツァルト:歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」

毎回大好評を頂いております関西二期会サロンオペラ。気軽にプロの演奏を楽しんで頂くことをテーマに公演を重ねてきました。第16回公演は、モーツァルト・オペラの真骨頂「コジ・ファン・トゥッテ」をお届けします。魅力的なアリアから精緻なアンサンブルまで盛りだくさんの人気オペラを歌手の息遣いまで感じられるザ・フェニックスホールの空間でお楽しみください。

協力公演

非破壊検査ニューイヤーコンサート2018 ローマ春のフィオーレ

主催 読売テレビ

2018年1月11日(木) 19:00開演 指定席 S席(1階席) ¥8,000(友の会価格¥7,200) A席(2階席) ¥6,000(友の会価格¥5,400) ※S席は完売いたしました。1階席は丸テーブルでワインを飲みながらお楽しみいただけます。2階席は開演前と休憩時にロビーにてワインを楽しんでいただけます。 ※残席わずか。

出演 ロザリア・ブシェミ(ソプラノ)、榛葉樹人(テノール)、今井俊輔(バリトン)、アヴォス・ピアノ・カルテット(ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)
曲目 ドニゼッティ:歌劇「シャモニーのリング」より「この心の光」 ヴェルディ:歌劇「椿姫」より「乾杯の歌」
マスカーニ:歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より「インテルメッツォ」 E・ディ・カプア:オー・ソレ・ミオ ほか

『新しい時代』はこの時代にどう響くか？

伊東信宏

オペラ『新しい時代』は、2000年4月に初演されましたが、私はこれがある新聞で始めた批評の仕事、初回の対象として取り上げました。東京ベースの新しい仕事で、吉田秀和さんや林光さんなどの重鎮たちに混じって担当するものでもあり、かなり緊張して臨んだ演奏会でした。ですが、演奏会場(京都のアルティでした)に入った途端、そんなことは吹き飛んで、ああこれは普通じゃないぞと感じたことをはっきりと覚えています。薄暗い会場の中で、スクリーンになんだか怪しげな記号が浮かび上がり、機材からはワーンという不思議な音が聞こえていました。そして、実際に舞台が始まってみると、私はほとんど驚倒しました。三輪さんが自ら書いたという言葉の力に驚き、そして「オペラ」にこんな生々しくも、切実で、そしてキッチュなものを持ち込むことができるのか、と驚きました。評には、このオペラの「子供っぽさ、脆弱さ」は、この時代にオペラを書くという課題から「作曲者が全く目をそらさなかったことの帰結だ」と書きましたが、この確信は今も変わりません。こんなに「現代的」なオペラを作る人が、この時代に日本にいたのだ、ということに私は驚き、感銘を受けました。

三輪さんの音楽に魅せられていくのは、むしろその後のことです。このオペラの音を聴くごとに、私は三輪さんの音楽の魔力に憑かれています。それはとても単純で、素っ気なくて、押し付けがましいところのない旋律たちですが、隅々までスタイリッシュで、いつも三輪さんの音であることを強く感じさせるものでした。そして、この作品が初演以来一度も上演されていないことを知って、いつかこれを再演したいと考えるようになりました。ついにその思いを関係者に訴えて、計画がスタートしてから四年ほどが経ちます。昨年末の関連する演奏会も含めて、異例の準備を経て、ようやく再演が実現します。

あの初演の時、私たちはまだ9・11も知りませんでした。ほとんど別世界になってしまったような気もする現代に、あのオペラがどう響くか、私は息をひそめて上演を待っています。

(いとう・のぶひろ 大阪大学教授、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)

『伊東信宏企画 三輪真弘+前田真二郎モノローグ・オペラ『新しい時代』』は、伊東信宏(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)の企画公演。2017年12月16日(土)午後4時開演。入場料は、一般3,000円(友の会2,700円)、学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみ取り扱い)。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06・6363・7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

Osaka
Guitar
Summer

夏の風物詩、クラシックギターの祭典

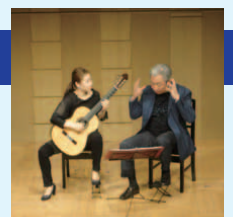
Osaka Guitar Summer 2017

今年も盛会に終了しました

今年で8回目になるOsaka Guitar Summerも無事終了。今年はチリ出身のホセ・アントニオ・エスコバルさんをゲストに迎え、南米の作品を中心に演奏いただきました。パリオスやボンセなどギターを愛する人なら馴染みの作品から、チリの新進気鋭の作曲家ハビエル・コントラスの作品まで、まさに南米づくしのリサイタルとなりました。

また、毎年行われている公開マスタークラスでは4名が受講。世界のトップ奏者のレッスンを受講していただくと同時に、お客様にもその様子を間近で見学していただきました。受講生も年々ハイレベルになっており、将来が楽しみです。過去の受講生たちも海外留学、CDデビューするなど目覚ましい活躍を始めています。今後のマスタークラスの受講生にも是非注目してください。

そして今年から始まったギターアンサンブルワークショップでは、ギター愛好



家の13名に参加いただきました。トローバの「版画」組曲から3曲を題材に5回の全体練習を行い、本番に臨みました。参加した人からは、「楽しかった。また来年も参加します。」との声もいただき、成功裏に終わりました。来年も行う予定ですので、ご興味を持たれた方は是非参加ください。

ますますパワーアップするOsaka Guitar Summerに来年もご期待ください！

気になる音

— 福本 健



Keizo Matsui

音楽評論という仕事に関わって、もう数年で丸40年になろうとしている。その間、年に160~180回程度、多い時には200回を越える数のコンサートを聴いてきた。そうした経験の中で、演奏会場でたびたび気になることがあったので、そのことに思いを巡らせたい。

まずは、音楽を聴く会場での音楽以外の音のこと。さすがに近頃は演奏中に携帯電話の呼び出し音が鳴ることはなくなったが、かつて携帯電話がかなり普及してきた時期には、幾度か演奏中の呼び出し音を経験した。ここ数年は一度もないが、それは各会場が導入した電波遮断装置のおかげだろうか。そんな装置を設置しなければならないことが、少し悲しい。

同様に演奏中の気になる音のひとつが、プログラムやチラシをめくる音。演奏を聴いている時に、ふとその曲や演奏者のことで気になることがあって、プログラムを見ることはあると思う。それは演奏に積極的に興味を示していると思えて、むしろ微笑ましくらいだが、その音は意外と近くの人には良く聞こえるものである。でも、それくらいは仕方ないと思うのだが、聴いている最中に突然チラシをパラパラとめくり出す人も時にいる。演奏に退屈したからかと思うが、ひどい時にはチラシの束をバサッと落としてしまうことも。そうでない時でも、膝の上にバッグやプログラム、チラシを置いて演奏に聴き入っていると、ちょっとした身体の動きでチラシが落ちたりすることも、間々ある。実は、本人は気がついていないだろうが、階段状になっている席（ザ・フェニックスホールでは2階席がそうだが）では、膝の上から本人の耳までと、その前の一段低い席に座っている人の耳までの距離は、前の席のほうが近いことが多い。そこで膝の上で出た音は、本人より前の席の人に

よく聞こえることになる。何を言おうとしているかは、お分かりいただけるだろう。演奏を聴く時には、基本的に必要の無いものは、椅子の下に置く習慣が定着すれば良いのに、と思う。ついでながら、椅子の下のことで思うことをもうひとつ。女性のほとんどは大小様々なバッグや紙袋を会場に持ち込まれるが、多くの人が前の席の背もたれと自身の足の間に置かれることが多い。開演前に後から来た人がそこを通る時には、毎回バッグを持ち上げて、来た人を通して。椅子の下は結構広いので、そこにバッグを取ってしまえば、もっとスムーズに後から来た人が通れるのに、なんて余計なことを考えてしまう。ちなみに男性で少し大きいバッグを持っている人は、おもしろいことにほとんどが椅子の下に取めている。

そして多くの人が気にしているが、演奏中の咳だろう。迷惑をかけまいと思って、できる限り小さく咳をする状況を幾度となく見ているが、小さく咳をすることではすっきりしないので、何度も繰り返すほうが、周りには気になることが多い。そういう時は、もちろんタオル地のハンカチなどで口を覆って、一度思い切り咳をしたほうが、意外と周りは気にならないものである。ただし、咳が出そうだからといって、その場でバッグの中を掻き回してハンカチを探すのは、大迷惑になることが多い。咳用の飴とハンカチといった、もしかして必要になるかも、というものは予め用意しておくいいのではないだろうか。特にバッグなどを椅子の下に取めている場合は。

何か説教じみたことばかりを書いてしまったが、これはマナーとかの大げさなものではなくて、同じ会場で一緒に演奏を愉しむ人同士の思いやりの基本だと思うのである。



福本 健(ふくもと・けん)/音楽評論家

1949年岡山市生まれ。大阪音楽大学作曲科楽理専攻卒業。同大学音楽専攻科修了。1979年春より音楽評論活動を開始。音楽雑誌・新聞などに演奏会評やレコード批評、CDのライナーノートなどを執筆中。大阪音楽大学付属音楽院およびNHK文化センター神戸講師。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2017年11月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール
編集 諸藤 修一
デザイン 松井桂三有限公司

